関北部地区

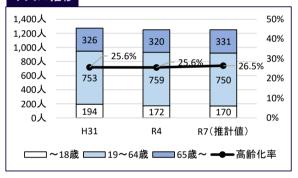
◆概要

まち協名 関北部地区まちづくり協議会 【位置図】 所在地 亀山市関町会下1265-20 電話 0595-96-3171 地区構成 会下 鷲山 白木一色 木崎 地域特性 亀山市の中心に位置し、自治会は会下、富士見、会下団地、会下住友、鷲山、白木 一色、あけぼの台で構成されています。亀山・関工業団地に隣接し、付近には東名阪 自動車道や名阪国道、国道1号などが接続する亀山ICがあります。亀山ICからは伊勢 自動車道とも、さらに2008年2月には東名阪自動車道亀山JCTを介して新名神高速道 路とも接続されるなど、道路交通の便に優れた地域となっています。また、羽黒山・正 法寺山荘跡があり、正法寺の桜は満開時期には見事な花を咲かせています。 ホームページ https://sekihokubumati.wordpress.com/ 面積 678.6ha めざす姿 -人ひとりが安全・安心な暮らしを実感できる仕組みと誰もが健康で潤いのある暮らしができるまち 各種団体と協力しながら、地域住民の親睦を深め、地域活性化と福祉の向上を目指して活動してい 地域の誇り

◆人口

		平成31年	令和4年	令和7年 (推計値)	増減
総人口		1,273人	1,251人	1,251人	-22人
人口密度		1.88人/ha	1.84人/ha	1.84人/ha	-0.03人/ha
65歳以上	人口	326人	320人	331人	-6人
	比率	25.6%	25.6%	26.5%	0.0%
18歳以下	人口	194人	172人	170人	-22人
	比率	15.2%	13.7%	13.6%	-1.5%
外国籍	人口	119人	132人		13人
	比率	9.3%	10.6%		1.2%

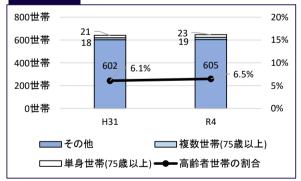
◆人口推移



◆世帯

	平成31年	令和4年	増減
総世帯	641世帯	647世帯	6世帯
単身世帯 (75歳以上)	21世帯	23世帯	2世帯
複数世帯 (75歳以上)	18世帯	19世帯	1世帯
高齢者世帯割合	6.1%	6.5%	0.4%

◆世帯推移



◆介護保険認定者

	平成31年	令和4年	増減
要支援1.2	18人	14人	-4人
要介護1~5	40人	36人	-4人
合計	58人	50人	-8人

◆地域組織

	~~		
	平成31年	令和4年	増減
自治会	7	7	0
老人クラブ	0	0	0
子ども会	(1)	(1)	0

◆福祉・医療・教育等に関する社会資源

民生委員·児童委員	3
福祉委員	7
介護保険施設·事業所	0
サービス付き高齢者向け住宅・有料老人ホーム	0
障がい福祉施設・事業所	0
児童福祉施設·事業所	0
病院・診療所	0
歯科	0
保育所	0
幼稚園	0
認定こども園	0
放課後児童クラブ	0
放課後子ども教室	0
子育て支援センター	0
学校(小・中・高)	0
乗り合いタクシー停留所	10



防災訓練



餅つき大会

◆担当地域包括支援センター

亀山第2地域包括支援センター もくれん

◆サロン活動

	平成31年	令和4年	増減
ふれあい・いきいきサロン	0	2	2
子育てサロン	0	0	0
コミュニティサロン	0	0	0

◆福祉委員会活動

- ◆構成員 まち協役員 民生委員・児童委員 福祉委員
- ◆活動内容

【交流活動】

三世代交流事業として、餅つき大会を行っています。 【訪問活動】

年2回75歳以上の高齢者宅訪問活動やひとり暮らし高 齢者宅へ見守り活動を行っています。

【その他】

福祉施設への見学等を行い介護の知識などをの向上を図っています。

◆まちづくり協議会の恒例事業

- •75歳以上高齢者訪問活動
- •防災訓練
- 餅つき大会

◆生活支援コーディネーターからのコメント

関北部地区の人口は1,251人で、そのうち25.6%にあたる320人が65歳以上です。地域内647世帯のうち、6.5%にあたる42世帯が75歳以上のみで構成されています。また、地域内人口の10.6%にあたる132人が外国籍です。地域の特色として、地区内には地域の人が多く利用するスーパーがあり、住民同士の顔の見える関係性の一助にもなっています。また、まち協の部会として、自治会部を位置付け、円滑な組織運営に努められています。新型コロナウイルス感染症の影響で、ほとんどイベントが中止となりましたが、感染対策をしっかり行い、まち協役員がついた餅のテイクアウトを実施され、地域住民との交流を図られました。今後は、地域で暮らす住民がさらにまちづくりに関心を持ってもらえるよう、地域づくりについて意見交換の場などを設けることも地域活動の活発化につながると考えられます。また、関町北部ふれあい交流センターで地域住民の集いの場であるサロンを開催するなど、今ある資源をより有効活用することで地域住民同士のつながりの醸成を図ることが期待されます。